

「GIC 第9回ガラス技術シンポジウム」参加報告

(一社) ニューガラスフォーラム事務局

Report on the 9th Glass Technology Symposium sponsored GIC

New Glass Forum



1. 経緯

ガラス産業連合会（Glass Industry Conference）がガラス6団体で設立されて、13年目となります。GICの主な役割は構成するガラス関連6団体（板硝子協会、硝子繊維協会、電気硝子工業会、（一社）日本硝子製品工業会、日本ガラスびん協会、（一社）ニューガラスフォーラム）の共通する技術課題フォローや新年会など重複する行事の遂行をすることです。

ガラス技術の交流が、特に学会と産業界の間で不足しているとの反省から、産学交流活性化の応策として9年前から、日本セラミックス協会ガラス部会主催の「ガラスおよびフォトニクス材料討論会」の初日の午後に共催プログラムとして「ガラス技術シンポジウム」を開催す

ることになりました。また、ポスターセッションではガラ討と合同でポスターセッション、研究室紹介、その後の懇親会を行っています。

初回の滋賀県立大学「ガラス破壊・強度」、東京理科大学「環境とガラス」、豊橋技術科学大学「環境負荷の低減に向けて」、東北大学「ガラスと表面」、京都大学「エネルギーとガラス」、東京大学「リサイクル技術とガラス」、兵庫県立大学「評価・解析・検査技術の今昔」、北海道大学「ガラス製造を支える先端技術」と行われてきております。今回は、11月21日（木）に産業技術総合研究所関西センター基礎融合材料実験棟をメイン会場として開催されました。懇親会も、同会場で行なわれました。

当フォーラムでは、企画部長の丸山勉が事務局をして準備を進めてきました。当日の参加者

は190名（二日間合計で211名）でした。

2. 講演テーマと講演者

今回の講演のテーマは、「ガラス製造を支える先端技術」ということで、冒頭、GIC運営・技術委員長、物質・材料研究機構の井上悟氏とGICシンポジウムWG主査の日本板硝子の坂口浩一氏より挨拶がありました。①「快適環境や空間の構成要素としてのガラス及び再生ガラスの可能性」(横浜国立大学・志村真紀) ②「快適空間の創成と光触媒ガラス」(日本板硝子・皆合哲男) ③「光と色による環境デザイン」(摂南大学・岩田三千子) ④「ガラス食器の快適性—デザインと技術の結びつきによる心地良さ」(東洋佐々木ガラス・柴田憲章)の4講演が行われました。

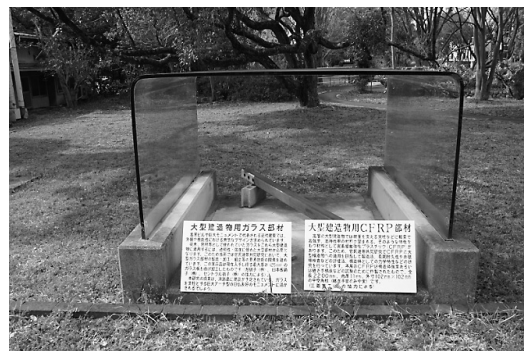
ポスターセッションでは、GICテーマとして20件の発表がありました。参加機関は、旭硝子、五鈴精工硝子、エヌデーデー、岡山大学、硝子繊維協会、北見工業大学、九州大学、京都大学、セラミックフォーラム、東京大学、東洋ガラス、東洋ガラス機械、日本板硝子、日本電気硝子、日本山村硝子、ニューガラスフォーラム、北海道大学、Frauenhofer, Glass Service（五十音順）でした。

例年のようにGICの活動紹介のポスターとニューガラスフォーラムからガラス種30万以上収録の「INTERGLAD Ver 7.2」のポスター展示がおこなわれました。



3. 余話

学生時代ガラスの研究室にいてガラス会社に入社しているときに、ずっとガラスの研究拠点として有名であった聞きしおよぶ大阪工業試験所（産総研関西センターの旧名）を32年目にして初めて訪れました。所在地の池田は、阪急電鉄の創始者小林一三の旧邸・雅俗山荘（小林一三記念館）、彼のコレクションを集めた逸翁美術館、インスタントラーメンを発明した安藤百福の「インスタントラーメン発明記念館」の所在地です。



構内には直径206 cmの反射望遠鏡材（1958-1964製造）、大型建造物用ガラス部材が屋外展示されており、東京ではまだ始まりかけであるのにここでは紅葉の真っ盛りでした。昼食は、研究所近くのピザを焼く本格的な窯のあるスペイン料理屋で舌鼓を打ちました。最終日の夜は関東の大学からこられた先生と学生を案内して、大阪梅田のたこ焼き屋で祝杯を挙げました。